

伊勢湾海難防止協会・調査研究事業（補助事業）一覧表

年 度	事 業 名	概 要
令和3年度	船舶の湾外避難等の措置に冠する調査検討	<p>東京湾、大阪湾等の船舶が輻輳する海域において、台風により走錨した船舶が臨海部施設や他船に衝突する事故が複数発生していることに鑑み、海上保安庁においては、走錨に起因する事故の防止を図るため、海上交通安全法の一部を改正して、「湾外避難等の勧告制度」を創出した。</p> <p>同制度は、海上交通安全法の対象海域である伊勢湾には適用されるが、伊勢湾に接続し、一体的な水域として運用がなされている三河湾には適用されないことから、第四管区海上保安本部では、伊勢湾はもとより、三河湾についても同制度を準用する方針を示し、その推進母体として「伊勢湾・三河湾台風等対策協議会」を設置し、同制度の円滑な運用を図ることとした。</p> <p>本調査検討では、伊勢湾・三河湾における避難勧告の対象とする台風の規模、対象とする船舶、勧告等の内容、発出・解除時期等に係る基準を検討し、船舶の湾外避難等の措置に関する対策を取りまとめた。調査結果は、伊勢湾・三河湾台風等対策協議会の運用基準となるものであり、当協会のホームページに掲載し、広く周知を図っている。</p>
令和2年度	台風来襲時における避泊船舶の安全確保に関する調査研究	<p>令和元年度には、大型台風が立て続けに来襲し、日本各地に大きな被害をもたらした。船舶海難に目を向けてみると、令和元年9月の台風15号により、東京湾は、走錨に起因する4件の衝突事故が発生。また、10月の台風19号では、東京湾川崎沖で貨物船の沈没事故が発生している。</p> <p>当地方は、台風の直撃的な影響はなく、東京湾のような海難事故は発生していないが、今後、当地方に台風が来襲し、船舶交通に混乱を来すことは、予想し難くなく船舶海難の発生を誘発する可能性も否定できない。</p> <p>よって、令和元年度事業「伊勢湾・三河湾における台風避泊に関する調査研究」で検討した各種対策を検証するとともに、東京湾で発生した走錨に起因する衝突事故を参考事例として、台風来襲時における避泊船舶の安全確保を主眼とした対策のフォローアップを図った。</p>

令和元年度	伊勢湾・三河湾における台風避泊に関する調査研究	<p>伊勢湾・三河湾を利用する船舶の安全に資することを目的として、台風来襲時における伊勢湾・三河湾に避泊する船舶の実態について、平成30年度に伊勢湾に影響をもたらした台風21号（平成30年9月）、台風24号（平成30年10月）来襲時におけるAISデータを用い、避泊場所の特徴（位置、船種、船型）、走錨の有無等について解析を行い、中部国際空港の周辺海域における荒天時の錨泊自粛、海上交通センターによる走錨監視及び情報提供強化並びに、錨泊船の混雑状況や守錨直、ちちゅう時の一般的な注意事項等について検討を行い、台風避泊サポートマップ並びにリーフレットとして取りまとめた。</p>
平成30年度	伊勢湾・三河湾におけるプレジャーボートの安全確保に関する調査研究	<p>伊勢湾・河湾は、日本有数のマリレジャー地帯であり、湾内一帯がプレジャーボートの活動の場となっている。海上保安庁等の行政機関、マリーナ・プレジャーボート関係団体は事故防止に取り組んでいるが、プレジャーボートの事故発生率は、他の船舶に比べて高い状態にあることから、マリーナ等における安全管理体制の状況、関係団体の活動状況及び行政機関の取り組み並びに、簡易型AIS、小型船舶用VHFの利活用について検討を行い、これが海域におけるプレジャーボートの安全確保に資する対策を取りまとめた。</p>
平成29年度	伊勢湾・三河湾における海上交通の安全確保にかかる調査研究	<p>伊勢湾・三河湾における海域利用、港湾管理行政、海上交通行政、漁業管理行政等の実情を踏まえ、これらの関係者の相互理解と安全意識の共有を図り、海域における海上交通の安全確保に資することを目的として「鳥羽・伊良湖部会」「衣浦・師崎部会」「三河部会」「四日市部会」「名古屋部会」において、地域特性に応じた海上交通実態の現状把握、海域利用の実態の把握、港湾整備・港湾管理の現状の把握、海難防止、航行安全に関する取り組みの現況、海域利用者相互の安全確保に関する対応、津波来襲時における避難体制等について多面的な視点から調査検討を行った。</p>
平成28年度	三河湾内における大津波来襲時の航行安全対策に関する調査研究	<p>平成27年度において、南海トラフ巨大地震の発生に伴う津波・大津波が来襲することに対し、名古屋港、四日市港に在泊する船舶の津波避難行動について調査研究を行ったところであるが、同調査研究を行うなかで、三河湾内（衣浦港、三河港）に在泊する船舶に対しても同様の調査検討を行う必要があるとの提言を受けた。</p> <p>衣浦港、三河港は、中部経済圏を代表する主要港湾であり、多数の船舶が入出港し、在泊する港であることに鑑み、津波被害の最小化を図るため、南海トラフ巨大地震に対する船舶の避難行動の在り方等について整理した。</p>

<p>平成 27 年度</p>	<p>伊勢湾内における大津波来襲時の航行安全対策に関する調査研究</p>	<p>南海トラフ巨大地震に伴い生じる津波に関し、伊勢湾内を航行または錨泊する船舶及び伊勢湾諸港に在泊する船舶の津波に対する避難行動について、既往調査結果及び各港湾の津波対策の現状を調査整理し、同津波が船舶に及ぼす影響について把握するとともに、港湾のリスク軽減の観点から船舶の避難行動のあり方を整理して、津波来襲時における減災対策に寄与することを目的とする。(三か年計画)</p> <p>1年目(平成27年度)は、2回の委員会を開催し、①伊勢湾内の海域利用実態及び津波避難船舶の把握、②南海トラフ巨大地震津波の影響把握、③既存の津波対策及び調査研究資料の整理、④伊勢湾における船舶の避難海域の検討を行った。</p>
<p>平成 26 年度</p>	<p>伊勢湾・三河湾における漁船操業実態及び船舶通航周辺にかかる航行安全に関する調査研究</p>	<p>伊勢湾及び三河湾の漁業に関し、操業実態、環境及び組織等の多面的角度から、その実態を調査し、同湾内の海域利用者が相互に漁業活動の実態に関して共通した認識を深め、同湾内の有効利用に対する意識高揚を図り、一般船舶の航行安全及び操業漁船の安全確保、並びに同湾内海域利用者の相互理解の向上に資することを目的とし、学識経験者、海域利用者、漁業関係者、関係行政機関の参画を得て特別専門委員会(2回)を開催し、伊勢湾・三河湾における漁船操業実態を取りまとめた。</p>
<p>平成 26 年度</p>	<p>狭水道における航行安全に関する調査研究</p>	<p>伊勢湾の海上交通の要衝である伊良湖水道、衣浦港への通航路となっている師崎水道は、狭隘な海域であり、かつ好漁場となって操業漁船等も集積する状況にある。かかる観点から、学識経験者、船舶操船者、漁業・マリーナ関係者、海上保安庁等の関係者の参画を得て委員会(鳥羽地区部会・師崎地区部会)を開催し、これが水道における一般船舶と操業漁船並びにプレジャーボートの相互の安全上の諸問題について検討を行った。</p> <p>委員会の各部会では、海上保安庁が推進する航行安全行政、航行船舶、操業漁船並びにプレジャーボートの現状について忌憚のない討議を行い、今後の伊良湖水道、師崎水道のみならず伊勢湾全域における船舶交通の安全確保に資する成果を得た。</p>
<p>平成 25 年度</p>	<p>外国船舶の航行安全対策に関する調査研究</p>	<p>既存資料を基に、四特定港及びこれら特定港に至る海域における港湾事情、海上交通ルール等船舶運航に係る交通情報を網羅した資料を作成、海難防止の観点から湾内航行船舶の安全に資するツールとして「伊勢湾・三河湾海上交通安全情報図」(日本語、英語、中国語、韓国語)を取りまとめた。</p>

	狭水道における航行安全に関する調査研究	船舶運航関係者・漁業関係者等により、狭水道における一般船舶と漁船の運航状況と操業形態などの現状について意見交換を行い、相互の理解と安全上の諸問題について対応策を検討。(鳥羽地区部会、師崎地区部会)
平成 24 年度	伊勢湾・三河湾及び周辺海域における内航船舶の航行安全に関する調査研究	伊勢湾・三河湾及び周辺海域における内航船舶の運航実態並びにその周辺海域における漁具等の設置状況について調査し、内航船舶を対象としたアンケート結果を整理して問題点を抽出し、海難防止に資する安全対策を取りまとめた。
	狭水道における航行安全に関する調査研究	狭水道を航行する船舶運航者と同海域で操業する漁業関係者で、安全上の諸問題について討議検討と相互理解。(鳥羽地区部会、師崎地区部会)
平成 23 年度	プレジャーボートの実態及び安全対策について調査研究	全体的な海難隻数が減少する中、近年の海洋レジャー活動の活発化により、プレジャーボートの海難隻数が増加している傾向にあることから、平成 8 年度及び平成 16 年度に引き続き、伊勢湾・三河湾海域を対象としたプレジャーボートの海難発生状況・原因及び防止対策等整理し、アンケート調査を踏まえ、安全対策について調査研究。
	狭水道における航行安全に関する調査研究	船舶運航関係者・漁業関係者等により、狭水道における航行船舶と漁船の相互安全上の諸問題について対応策を検討。(鳥羽地区部会、師崎地区部会)
平成 22 年度	伊勢湾・三河湾における船舶の避泊に関する調査研究	新交通ビジョンを踏まえた海上交通の安全確保のための制度改正(平成 21 年 7 月 3 日公布)が行われ、その中で港内交通の効率化、安全対策の強化として、異常気象時等の危険防止のための指示・勧告が創設され、平成 22 年 7 月から施行されることになったことから、この指示・勧告を受けた船舶が伊勢湾・三河湾において利用できる泊地適地について調査研究。
	狭水道における航行安全に関する調査研究	船舶運航関係者・漁業関係者等により、狭水道における航行船舶と漁船の相互安全上の諸問題について対応策を検討。(鳥羽地区部会、師崎地区部会)
平成 21 年度	外国船舶の安全対策に関する調査	平成 11 年度～14 年度にかけて、名古屋、四日市、衣浦及び三河の各港に入出港する水先人が乗船しない外国船舶を対象とした英文の「航行安全指針リーフレット」を作成したが、その後の新たな交通ルールの変更、自主規制の導入、港湾事情の変更等による航行環境の変化が見られることから、名古屋、三河港について、これらの見直しによる対応を検討。

	狭水道における航行安全に関する調査研究	船舶運航関係者・漁業関係者等により、狭水道における航行船舶と漁船の相互安全上の諸問題について対応策を検討。(鳥羽地区部会、師崎地区部会)
平成 20 年度	伊勢湾及び伊良湖水道航路における交通ルール変更に伴う通航船舶の運航実態に関する調査研究	伊良湖水道航路における準巨大船の航路待機基準の運用及び巨大船の航路航行義務区間の特例の見直し、また、主要航路(自主規制航路)の変更に伴う運航実態等についての船舶航行安全対策に関する調査研究。
	狭水道における航行安全に関する調査研究	船舶運航関係者・漁業関係者等により、狭水道における航行船舶と漁船の相互安全上の諸問題について対応策を検討。
平成 19 年度	伊勢湾・三河湾における1万トン未満の外国船の運航実態に関する調査研究	伊勢湾における1万トン未満(水先人不乗船)の外国船舶の運航実態等について調査するとともに、航行安全上の問題点を分析し、これら船舶に対する安全対策と安全指針等の見直しなどについて調査研究。
	狭水道における航行安全に関する調査研究	狭水道における航行船舶と漁船の相互安全上の諸問題について、各地区関係者が一堂に会して討議・検討、対応策の調査研究。(鳥羽地区部会、師崎地区部会)
平成 18 年度	伊勢湾における主要航路の航行安全対策に関する調査研究	平成17年2月に中部国際空港が開港し、空港島西側海域の伊勢湾における船舶の航行環境が変化していることから、航行経路や航行安全指導の見直し等について調査研究。
	狭水道における航行安全に関する調査研究	狭水道における航行船舶と漁船の相互安全上の諸問題について、各地区の関係者が一堂に会して討議・検討を行い、対応策の調査研究を行った。(鳥羽地区部会、師崎地区部会)。鳥羽地区部会においては、鳥羽商船高等専門学校の協力を得て、同校練習船「鳥羽丸」船内を会議室とし、伊良湖水道航路等の交通実態を海上から調査を実施。